

# 禪の友

Zen no Tomo

# 10

October 2020

特集 達磨忌





ご本山だより

# 大本山永平寺

## 【深山幽谷に坐す】

大本山永平寺 ☎〇七七六・六三・三一〇二



朝夕はめっきり冷え込んできましたが、日中はすがすがしい気候となりました。

修行僧のことを雲水うんすいといえます。行く雲のようにかたちをとどめることなく、流れる水のようにどんな場所でも、その本分を違えることなく染みわたっていきます。

大本山永平寺は深い山に囲まれた地にごじます。建物のすぐ近くには、樹齢五〇〇年以上、高さ五十メートルにも達する巨大な杉が多く自生しております。あまりの大きさに、建物の一部だと勘違いしたまま一年を過ごした雲水もありました。集中して自分のなすべきことに向き合い、ふとした時に壁だと思っていたものが生きた杉の木だと気づき親しみを感じたそうです。大仏寺山の中腹にどっし

りと腰を据え、大自然のエネルギーに飲み込まれることもなく、また山を切り開いて人間の都合で開発をすることもありませんでした。この地に調和し続けて約七七〇年。今も福井県の山奥に泰然としております。

永平寺の七堂伽藍しちどうがらんとよばれる主要な建物は、修行生活に欠かせない建物の組み合わせで出来ています。その組み合わせは、まるで大きな仏さまが山の斜面で坐禅を組んでいるように見えます。その中で修行する雲水はさながら血液か細胞のように仏さまの体内の隅々まで動き回ります。そうして今日まで新陳代謝を繰り返しながら、道元禅師さまのおさとりをひとしずくも漏らさず今に伝えていきます。

その働きは、物言わぬ仏さまの坐禅を常に清らかにしているのです。



# ご本山だより 大本山總持寺

## 【御両尊の御征忌会】

大本山總持寺 ☎ 〇四五・五八一・六〇二一

両大本山では開山忌のことを「御征忌会」と申します。

例年、總持寺の御征忌会は十月十二日から十五日にかけて厳修しますが、本年はコロナ禍のため一日短縮して十四日までとなります。

期間中は全国から大勢のご寺院・檀信徒の方々が上山されますが、本年は焼香師さまの参拝団のみとなります。御征忌会は總持寺が能登に在った頃、最初は二祖・峨山禪師ご命日の旧曆十月二十日に行われました。

やがて、期日をご開山・瑩山禪師ご命日の旧曆八月十五日へ変更されました。すなわち現在の新曆十月初旬に相当し、これが現在まで引き継がれているのです。

このような経緯を踏まえ、總持寺で

はご開山さまと二祖さまのお二方を「御両尊」と尊称し、「御両尊の御征忌会」という独自の名称となっているのです。

往時、能登では御征忌会が終わると同時に新旧の輪番住職が交代し、輪番住職一人につき弟子や随行など一〇〇人前後が集まりました。それが五院の五人で五〇〇人前後、前任と新任を合わせますと、実に一〇〇〇人以上の人が門前に集まり、大変な賑わいがあったといわれます。

いま、コロナ禍で仏事も変化（省略化）を余儀なくされていますが、どんな状況でもご先祖を憶い偲ぶ気持ちだけは大切にいたしましょう。出来ることを精いっぱい行じて毎日を歩んでまいりたいものです。

選・坊城俊樹

一握の土を父とし沖繩忌

東京都 守屋栄子

評 慰霊の日が季節となった。昭和二十年六月二十三日のこの最後の決戦に思いを寄せる句。多くの民間人の犠牲者に誰かの父も居たはずだ。生死も不明なる父も居たかも知れぬ。沖繩戦の土には全ての犠牲者の魂が宿っているはずである。

抱き取りし子にも蛍の匂ひかな

山口県 藤野祥子

評 蛍狩りをしていた家族。闇の中へすぐ消えて行くこうとする吾子。やっと捕まえて抱き上げた刹那、此の子も蛍の匂いがした。蛍とは案外匂いがある。どういう訳なのか知れぬが、蛍の点滅とはすなわち求愛の行為なのだから匂いもまた放つはず。

◆ 梅雨ながき香煙しづむ堂の中 兵庫県 内藤昭子

◆ この辺り理科室ありし修司の忌 三重県 西村廣視

◆ 万緑の中に消えゆく魚板の音 栃木県 黒澤信子

◆ 蛸や我を流るる母の情 栃木県 小村翠香

◆ 山羊小屋の岩塩へこむ雲の峰 愛媛県 井上征郎

◆ 炎昼を握りしめたる訃報かな 大阪府 柏原才子

◆ 警策の音も湿りて梅雨最中 東京都 藤森莊吉

◆ 揚雲雀地上のさまを囃すなり 千葉県 甲斐 勇

◆ 手火花を残し長女の逝きにけり 埼玉県 小林茂之

◆ 夏帽子声の届かぬ人に振り 鳥根県 俵 保恵

選者吟

濃紫陽花とはあぢさみの終のこと 俊樹

作句小見 紫陽花の種類にもいろいろあるが色も白や赤、紫や紺など様々だ。実際はどうか知らぬが、この紫陽花の濃い色を観ているとこれはもう花の最期の色なのだろうと思った。俳句とはこんな勝手自在に花の一生を諷詠することもできる。

選・長澤 ちづ

午後の五時スマホ一面鰯雲がひろがり娘  
の住む空が届けり

兵庫県 前田 あつ子

評 離れたところに住む娘さんなのだろう。感染  
症防止のため、以前のように簡単に行き来が  
出来なくなつた現在、直接会えないもどかし  
さはあるもののスマホは便利なツール。「空が  
届けり」の伸び伸びとした表現が詩的かつ解  
放感に溢れる。

NHK日本ニュースは英語です日本育ち  
は日本語聞きたし

ロサンゼルス 井上 健一

評 作者は長く米国で暮らす。日常生活に日本語  
がなくとも何ら不自由するわけではなく、日  
本語が聞きたいだけなのだ。「日本育ち」には  
果てしない望郷の念と誇りが籠もる。

- ◆ 鼠啞へ見せに来たりしトラオとふ母が愛せし昭和の猫よ  
三重県 西村 廣視
- ◆ 賜物の枇杷の実水に沈めれば産毛がはじく水無月のつや  
愛知県 深谷ハネ子
- ◆ 父母に琴音と名付けられたる児寝るまで琴のやうなおしやべり  
大阪府 柏原 才子
- ◆ 老いたれば菜園やめよと子らの声聞けば良かつた通院始まる  
福島県 西木 甚
- ◆ 短歌とふ自分探しの永き旅行けるとこまでゆるりゆるりと  
島根県 横山 麩吾
- ◆ 枝先の卵囊解きて蜘蛛の子のこぼれて四方へ我が庭楽し  
鳥取県 眞山 博充
- ◆ 日焼けの手に真珠の指輪似合わぬも嫁ぐ姪っ子の祝いに向かう  
長野県 南山 時子
- ◆ 友よ友なぜに急ぐか彼の国へいとしき人の待つとあらぬに  
埼玉県 丸山 劫外
- ◆ 思い出は絵画と写真の二人展置き土産して友は逝きたり  
鳥取県 山本 浩一
- ◆ 雨続き野菜はいつしか病気でる風を通して密を避けねば  
京都府 小林 靖子

選者誌

人体は水はこぶ壺ゆれながら前うしろ右ひだり

心も保つ

ちづ

作歌小見 感染症との兼ね合いでなかなか旅行も思うにまかせぬな  
か横山さんの自分探しの旅なら机上でも気儘きままに出来そう。その旅を  
短歌という志がまた素敵です。先が見えないところが一番の魅力  
なのかも知れません、共に頑張りたいものです。